

## 編集後記

平成 19 年が始まり、核医学編集委員会も新メンバーを加えて井上登美夫委員長のもと新たな気持ちで望んでいます。懸案の ANM オンライン化も間近に迫り、停滞気味であった ANM の Impact Factor が上昇することを期待しています。

核医学診療においては、PET/CT の普及が確実に進んでいます。放射線診断医の先生に敬遠されがちであった核医学領域にも、若手の診断医の先生がどんどん参画されてきているようであり、診療の質が向上しているものと思われまます。FDG が CT の造影剤だという感覚に異論を唱える核医学専門医も多くいらっしゃると思いますが、核医学の学会誌を通じて、核医学のトレーサは造影剤をはるかに凌駕するものだということを理解していた

だくよう努めていく必要があると考えます。

最近、米国では、アルツハイマー病に対しての治療薬の治験に FDG-PET を含む神経画像を積極的に利用しているという研究プロトコルが進行しています。神経画像を用いない治験に比べ、治験対象者の人数は 1/10 程度で済み、さらに短期間で治験が終了するメリットがあるようです。また、PET/CT 装置のごとく、SPECT/CT 装置も今後普及するものと思われまます。このように、核医学は転換期を迎え、日常診療および研究においてますます多用されていくものと考えられまます。

これからも、核医学発展のため会員の方々のいっそうのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(松田 博史)

## 核医学編集委員会

委員長：井上 登美夫（横浜市立大学大学院医学研究科 放射線医学）  
 副委員長：松田 博史（埼玉医科大学病院 核医学科）  
 委員：伊藤 浩（放射線医学総合研究所 分子神経イメージング研究グループ）  
 織内 昇（群馬大学大学院医学系研究科 画像核医学科）  
 内山 眞幸（東京慈恵会医科大学附属柏病院 放射線科）  
 工藤 崇（滋賀県立成人病センター 研究所）  
 汲田 伸一郎（日本医科大学附属病院 放射線科）  
 東 達也（京都大学医学部附属病院 核医学）  
 井上 優介（東京大学医科学研究所 放射線科）  
 絹谷 清剛（金沢大学大学院医学系研究科 バイオトレーサ診療学）  
 張 明栄（放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ）  
 長谷川 智之（北里大学 医療衛生学部）

「核医学」第 44 巻 1 号 平成 19 年 2 月 28 日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 井上 登美夫

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-45 (社) 日本アイソトープ協会本館 3 階

発行所 有限責任中間法人 日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社 海川 企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社